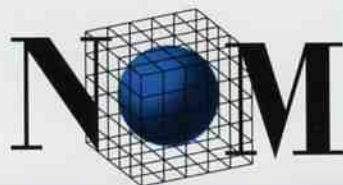


新潟県立近代美術館便り

雪 椿 通 信

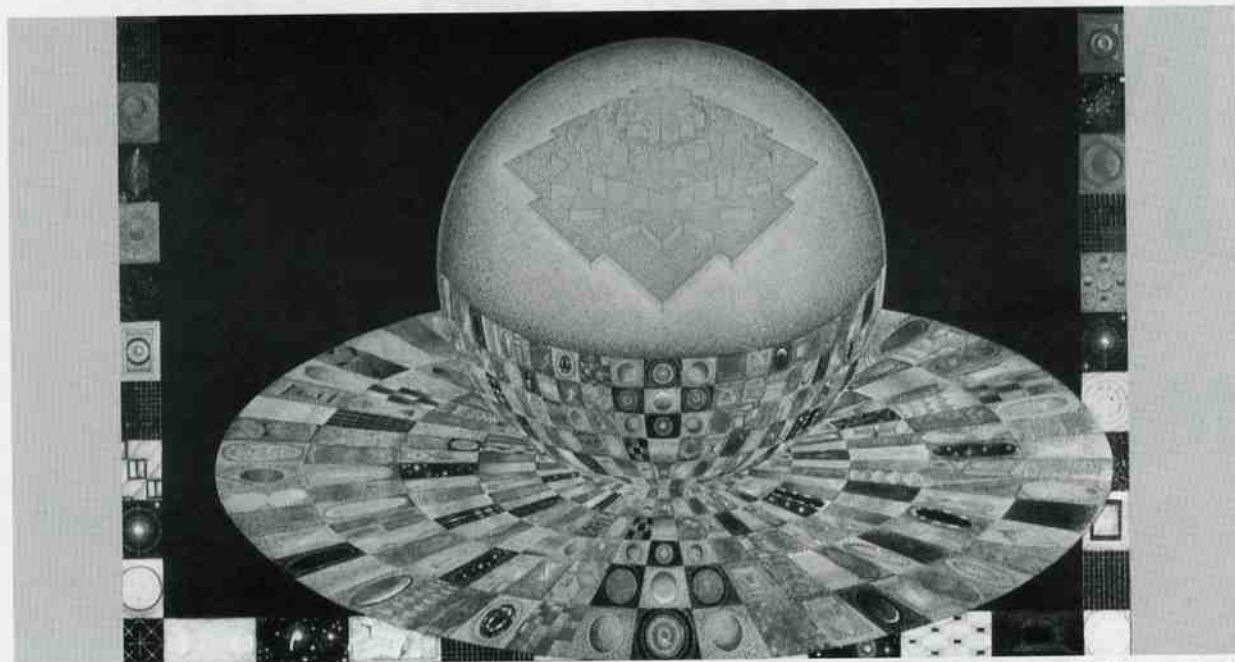


創刊号

1993.7.15

美術連話(1)「大光コレクション展のこと」

新潟県立近代美術館長 前川誠郎



前田常作「須弥山界道図シリーズ(寿量光)」 1974～5年
(当館蔵)

新装なった新潟県立近代美術館における最初の企画展、すなわち開館記念展を何にすべきかについては、県立美術館建設の基本構想が打ち出された平成元年以来、論議を重ねてきた。わが県とアメリカのイリノイ州との友好親善関係に因んで、同州シカゴ市にある世界有数の大美術館アート・インスティテュート・オブ・シカゴからの展覧会をという案は、平成2年秋当時の金子清知事の渡米で話の緒口が付いたが、これは先方の都合により明平成6年の春4月に開館1周年記念展として開催されることに着いた。そこで改めて浮上してきたのが今般の大光コレクション展であった。

周知のようにわが県近美の収蔵品の中核をなすものは、県が昭和56年に取得した旧大光相互銀行コレクション（長岡現代美術館）からの日本近代洋画の秀作七十余点である。県近美が新しく長岡市に所在を移したからには、十数年以前までこの地にあった同コレクションや長岡現代美術館の存在の意義を改めて考えてみ

ることはわが県近美が何にもましてなすべき仕事である。当初予定されたシカゴ展が次年度へ延びたことは、むしろ県近美にとってはその当然の義務を果たせという天の啓示であったのかもしれない。

県が取得した大光コレクションは上にも書いたようにわが国近代洋画に限られており、しかも具象画が多く、抽象とかノン・フィギュラティブとか新しい動向を示す現代美術作品は少ない。これらのものはどうなったかということと大部分は新潟県を出て全国に四散したのである。折しも当時は各地の自治体が美術館の建設を計画し、蔵品の収集に努めつつあった。例えば宮城県、いわき市、横浜市、茨城県、長崎県、福山市、高松市等々はその一端であり、美術館では公私合わせて29館に上り、そこに総数100点の作品がそれぞれ安住の処を得たのであった。これは換言するならば大光コレクションが単にわが新潟県に留まらず、広く全日本に根分けされたことになる。

このことの意義は大きい。それは

大光コレクションが全日本的な存在価値をもつ事業であったことを意味するからである。

当館は今般の開館記念展の実現を期して全力を注いで来た。この企画に対しては貴重な作品を所持される多くの美術館から好意あるご支援をうることができた。期間中には大光コレクションの意義を問うシンポジウムも開催される。殊に最も斬新な現代美術の分野へ向けられた収集家の眼は、それからすでに十数年を経た今日の視野からどのように評価されるのであろうか。

美術館の蔵品収集の基本はそれぞれの時点における現代作品の収集にあると言われるが、後世の批判に十分応えることのできる秀作の鑑別は実に至難の業なのである。大光コレクション展を通じて、人々はいま新潟の生んだ先覚の眼に対し改めてどのような感想をもつことであらうか。展覧会に「先見の眼差し」と副題した所以である。

緑に囲まれた人に優しい美術館

企画展示室



当館の企画展示室は、3面にガラス展示ケースを配した1,479㎡の広い空間です。当館独自の設備としては、自然光を取り入れるトップライト(天窗)と可動床があげられるでしょう。

中でも注目できるのは、なんといっても可動床。企画展示室の中央部分には、4.5×4.5mの大きさの区切

りが15面あります。各面単独で上下最高1mまで、任意の高さに床面を設定できます。これにより、従来の移動パネル、移動式展示ケース等による展示に加え、より自由で創造的な空間設定が可能となりました。

屋上庭園



信濃川の堤防から緩やかに続くスロープは美術館の屋上へとつながっていきます。これが屋上庭園。緑豊かな千秋が原の自然環境と美術館の建物とが一体化しています。

雄大な信濃川の流れと桜堤を背景に、さまざまな草花や木々に囲まれた芝生広場。美術の森の小径は自由

に散策が楽しめます。中央部にはイベントや野外展示ができるように広場を設けました。夜はライトアップで木々の姿が浮かび上がり、幻想的な空間となります。

四季折々の彩りの変化を楽しみ、くつろいだ中で自然と触れ合っただけです。

ハイビジョンシステム

新潟県立近代美術館ではロビー(無料ゾーン)にハイビジョンシステムを設置しています。番組を自由に選択して鑑賞できるハイビジョンギャラリー2室と、画像と文字によって当館の収蔵作品を検索できるデータベース室があります。最新設備により、いつでも速やかに美しい画像を見ることができます。

■ハイビジョンギャラリー

ハイビジョンギャラリーは2室。車椅子の人が鑑賞できるスペースも設置しています。当館のオリジナル

番組10本の他に、市販の番組もあります。

ハイビジョンギャラリーIは110インチの大型画像。団体来館者・講座・学校の課外授業などにも利用できます。33の固定席で、ゆったりと鑑賞できるシアター的空間のギャラリーで、音声は部屋全体を音響で包み込むサラウンド方式です。

ハイビジョンギャラリーIIは数人で静かに鑑賞できる60インチのディスプレイです。

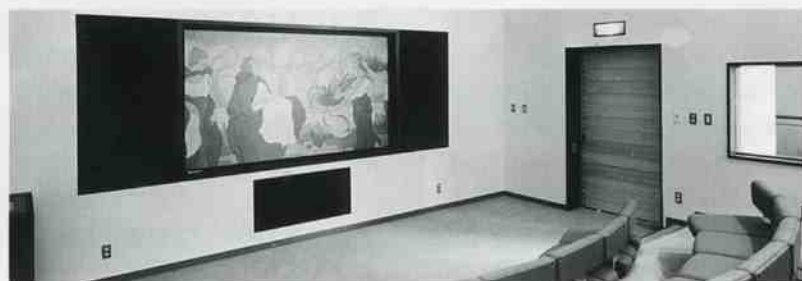
両ギャラリーとも、画面を見なが

ら操作盤に直接触れることによって見たい番組を自由に選択できる、易しい対話型の方式を採用しています。静止画番組の他にレーザーディスクやVTR番組、ハイビジョン衛星放送なども見られます。

■データベース室

新潟県立近代美術館収蔵作品の内1,100点をハイビジョン画像と文字情報で検索できるシステム。来館者が自由に利用できる研究のためのスペースで、一人タッチペンを使って利用します。一画面に8作品を並べるマルチ画像検索なので、画像を見ながら見たい作品を選択できます。また、作品によって部分拡大の画面も見ることができます。

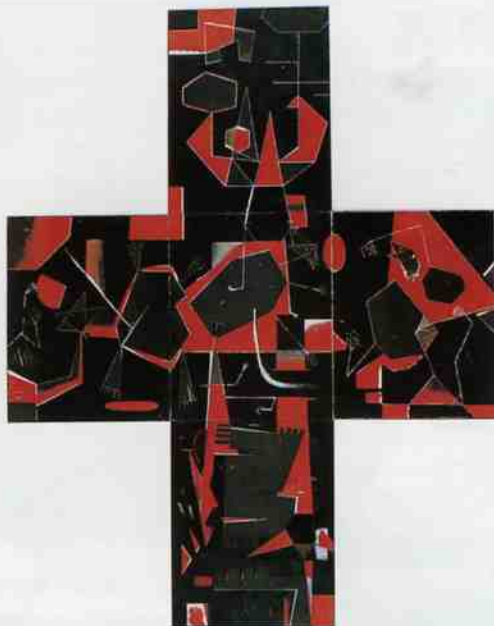
検索のコースは一般検索と専門検索の二つ。鑑賞や研究など、より多くのニーズに対応できます。



「大光コレクション展 先見の眼差し……再構成。」その鑑賞



三岸好太郎
「オーケストラ」1933年
宮城県美術館蔵



鶴岡政男
「人間気化」1953年
宮城県美術館蔵

「大光コレクション」とは1950-70年代前半に新潟県長岡市に存在した企業コレクションであり、これらを収蔵した長岡現代美術館とともによく知られている。それは、日本近代絵画の重要な作品を収集していたという以外に、西洋の抽象絵画や、その当時の同時代にあたる作家の前衛作品を意欲的に収集したこと、さらに、現代美術の推進を目的とした長岡現代美術館賞を設立し、受賞いかに関わらず全5回の出品作を購入していたことによる。かくして、この「大光コレクション」はその当時としては国内でも最大級のコレクションを誇ったのである。現在このコレクションの日本近代絵画と日本現代美術作品の一部は新潟県立近代美術館が収蔵しているが、それ以外は各地に四散している。この展覧会ではその四散した作品を含め、長岡に再構成しようというのが主眼である。

展覧会は大きく三つに分けて構成されている。一つは日本近代洋画を

中心とした作品群であり、愛好者が最も多いと思われる部門である。洋画黎明期に活躍した浅井忠をはじめ、大正期の巨匠岸田劉生、萬鉄五郎、戦後の現代美術の先駆者斎藤義重、吉原治良などの作品がひしめきあっており、ほぼ、近代日本洋画史を概観できる。しかし、黒田清輝をはじめとした外光派の作品が収集されていないのは、敢えて美術史に沿うつもりはないというコレクターの考えがあったからであろう。

次に外国部門だが、その内容は多岐にわたっている。質が高く、さらに現代美術の歴史がある程度まで展観できるコレクションは現在でも珍しい。

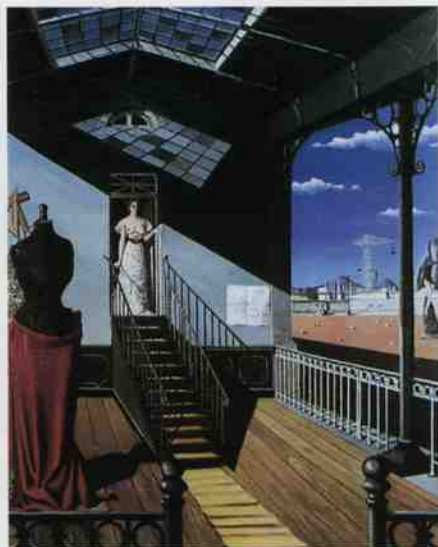
ピカソやアンリ・ルソー、ミロ、クレー等の古典的な作家をはじめ、エルンスト、ダリ、マグリット、デルヴォーといったシュールリアリストや、ポッチョーニやバッラ等の未来派の作家、さらに、ウォーホル、リクテンスタイン、ローゼンクイストといったポップ・アート系や、ス

テラ、ケリーといったミニマル系の作家等、当時、最も新しかったアメリカ現代美術を収集している。加えて、第二次大戦後はその座を奪われた感のあるヨーロッパの現代美術の作品も数多く、イヴ・クラインやフォンタナといったモノクローム絵画で有名な作家ばかりでなく、後年になって特に評価が高まってきているヴォルス、サザランド、フランケンサーラーなどの作品も収集されているのには驚かざるを得ない。

さて、今回の展覧会で特筆すべきは長岡現代美術館賞展部門である。長岡現代美術館賞は、新進気鋭の最も実力ある作家を選び、彼らに作品を発表する場を与えるというものがあった。その優勝賞金は60年代当時で100万円。審査は公開審査制をとり、審査に名を連ねた人は日本人だけでも土方定一、斎藤義重、オノサトシノブ、針生一郎、中原佑介、東野芳明である。2回展以降は外国作家も競合し、審査にはニューヨー

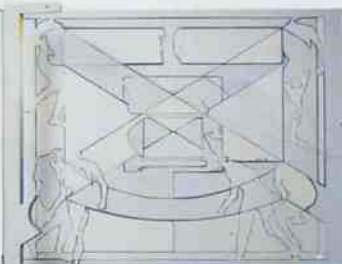


アンディ・ウォーホル
「16のジャッキーの肖像」 1964年
いわき市立美術館蔵

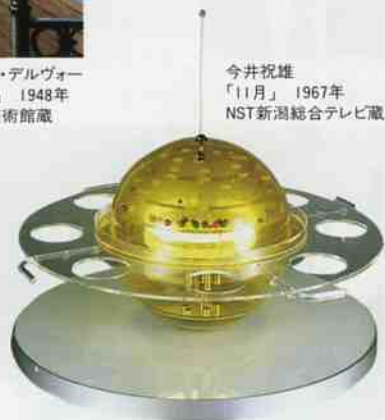


ポール・デルヴオー
「階段」 1948年
横浜美術館蔵

今井祝雄
「11月」 1967年
NST新潟総合テレビ蔵



宇佐美圭司
「トランスフォーメーション」 1968年
NST新潟総合テレビ蔵



ク近代美術館版画部長のウィリアム・リーバマン、ロンドンの現代美術研究所（I. C. A）所長のヤシヤ・ラインハート他が参加する。このような状況の中で作家たちが鑄を削って作品を制作したのである。当然、優れた作品が数多く発表され、作家にとっては若い時の作品でありながら、それが転機になったり、代表作の一つになったものも少なくない。しかし、残念ながらこれらの作品群のほとんどは長岡現代美術館の休館とともに展示されることも、外部に貸し出されることも稀となってしまった。従って、作品については文献などで知られてはいても、実物

をみる事ができた者は非常に限られており、その意味では作品のみならず、館賞展自体が半ば伝説化していたといっても過言ではない。それらの作品群が30年振りにまとめて公開されることになる。長い間倉庫等に置かれていたこともあり、破損なり部分欠落している作品もあるが、これらの作品群は今なお生きており、その熱気を伝えている。一般的に、1960年代は安保や学生運動等の背景とも交差し、ひとかたまりに論じられることが多い。しかし、今、1960年代後半を共に歩んだ館賞展作品を一堂に眺めた時、彼ら作家たちがどれだけ純粋に作品を創造したか、そ

して現代美術に残した遺産が、いかに大きなものであったのかを改めて考えさせられる。今日の日本の現代美術の活況があるのも、この時代に多くを負っているからだと言える。この展覧会は三通りの鑑賞ができる。日本の洋画の歴史を辿るのもよいし、世界の現代美術を俯瞰するのもよい。そして、1960年代の日本の美術を純粋に美術として再評価するのもにも絶好の機会である。どの立場からでも興味深い展覧会であると考えられる。

私達がお手伝いします。



前川誠郎館長

国立西洋美術館長などの経歴のある、研究、運営の両面において大ベテランの美術館の大黒柱。頼りになる、私達の館長です。



中野久男副館長

穏やかで頼もしい人柄の副館長。非常勤である館長に代わって館の事業をまとめています。



総務課

総務課の仕事は“施設の管理”と“経費の管理”です。わずか5人ですが、美術館の事業をスムーズに行なうための重要な仕事を受け持っています。来館される方々と接する機会はあまりありませんが、緑の下の方持ちといったところでしょうか。

また、ギャラリー、講堂の使用申し込みはこちらで受け付けておりますので、ご希望されるかたは総務課までお問い合わせください。



学芸課

美術品の調査、研究、収集、保存管理や常設展、企画展とこれに関連するイベントの企画、開催を行なうのが学芸課です。主に展示事業を担当する学芸係、そして主に普及事業を担当する普及係のふたつの係に分かれて仕事をしています。

展覧会開催時には解説会も行ないません。美術のことは学芸課の職員にお尋ねください。又、美術情報を皆様からお寄せいただければ幸いです。



嘱託員

インフォメーション（受付）、チケットの販売、展覧会場の監視、ハイビジョンギャラリーやレファレンスのご案内…。館内で直接お客さまと接するのが嘱託員の仕事です。来館する皆さんに一番近い存在といえるでしょう。

わからないこと、困ったことなどがあつたら、気軽に嘱託員に声をかけてください。

行事のご案内

企画展

- 7月15日(休)～9月5日(日) 新潟県立近代美術館 開館記念展
大光コレクション展
先見の眼差し……再構成。
- 9月17日(金)～10月17日(日) **「野間コレクションとその時代」展**
—近代市民社会の美術と蒐集家—
- 10月30日(土)～12月5日(日) **ベルギー現代美術展**
- 1月21日(金)～2月27日(日) **佐々木象堂とモダニズム**

常設展

- 7月～10月 近代美術館名品展
- 10月～12月 テーマ展 展示室1 人物表現による日本の美
展示室2 新潟の洋画家たち
展示室3 新潟の版画家たち／亀倉雄策のデザイン
- 1月～3月 人と風景—都市の景観—

イベント

- 7月31日(出)～8月1日(日) **李禹煥の公開制作**
会場：ギャラリー
入場無料 定員有り
- 8月1日(日) **ミュージアムコンサート 羽田健太郎の夕べ**
会場：講堂
時間：3時開場 3時30分開演 4時30分終演
主催：羽田健太郎を囲む会
共催：新潟県立近代美術館
しなの川音楽祭実行委員会
長岡まつり協議会
※会費制詳しくは長岡商工会議所まで TEL0258-32-4500
- 8月7日(土) **シンポジウム「コレクターとコレクション」**
入場無料 定員有り
パネラー〈予定〉：高階秀爾氏(国立西洋美術館長)
藤田慎一郎氏(大原美術館長)
本間正義氏(前埼玉県立近代美術館長)
吉沢昭宣氏(吉沢工業社長)
- 9月23日(木) **「野間コレクションとその時代」展 記念講演会**
講師：佐藤道信氏
(東京国立文化財研究所 美術部主任研究官)
- 11月14日(日)〈予定〉 **ベルギー現代美術展 記念講演会**
講師：伊藤誠氏(姫路市立美術館副館長)
- 2月〈予定〉 **佐々木象堂とモダニズム 記念講演会**
講師：樋田豊次郎氏
(東京国立近代美術館工芸館 金工係長／主任研究官)

次回の展覧会の紹介

「野間コレクションとその時代」展*
—近代市民社会の美術と蒐集家—



講談社の創設者で日本の雑誌王と呼ばれた野間清治氏の眼を通した近代市民社会とその時代の価値観の様相を捉える展覧会です。彼が私的に収集した作品を核とする日本近代美術の一大コレクションから日本画の優品を、また、出版事業との関わりから、雑誌の表紙原画や挿絵原画等も合わせて紹介します。

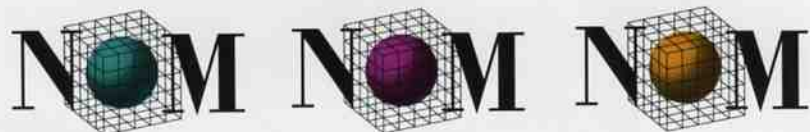
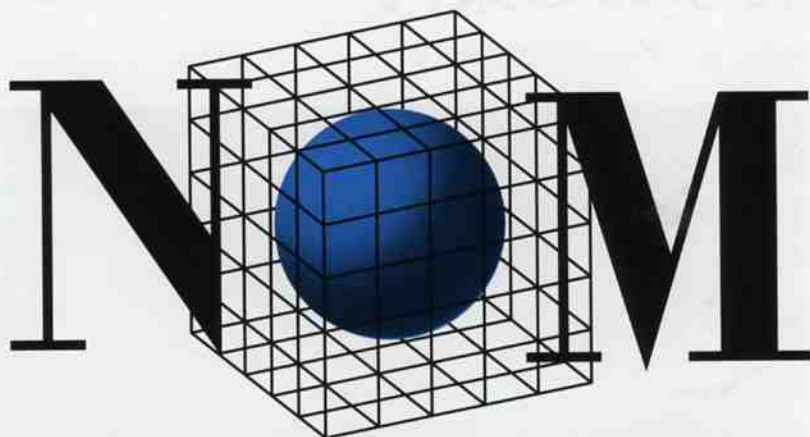
ベルギー現代美術展



現在のベルギーは、ワロン、フランドル両文化圏から成り、独自の文化を尊重してきています。現代美術に関しても個々の発表を行なってきましたが、今回、初めて両者一体となつての展覧会を実施します。戦後約半世紀にわたる間の、両文化圏を代表する18人の作家による作品を紹介いたします。

新潟県立近代美術館シンボルマーク紹介

新潟県立近代美術館のシンボルマークは、新潟県吉田町出身のグラフィックデザイナー、亀倉雄策氏にデザインを依頼しました。イメージは「近代」。Niigataの「N」とMuseum、Modernの「M」の文字をデザインし、立方体は透明感をさせるようコンピュータ・グラフィックスで線の組合せを行ないました。中央の球体は、緑、赤紫、山吹、青と、四季に合わせて4つの色を用意しています。



「新潟県立近代美術館便り」愛称紹介

雪椿は日本海側の雪国の山地に分布しています。冬の寒さと雪のために背の低い木で、4月から6月にかけて可憐な紅色の花を咲かせます。新潟県の木は雪椿。新潟から全国への発信ということで、新潟県立近代美術館便りの愛称は「雪椿通信」と決まりました。今後とも末長くご愛読いただきますよう、よろしくお願いたします。

表紙作品解説 ジョン=エヴァレット・ミレイ「アリス・グレイの肖像」



1859年
油彩・板・額装
22.5×17.5

ビクトリア朝の中流階級の家庭の娘を、当時における女性の魅力と少女の純真さを兼ね備えたものとして理想化して描いた作品で、初期ラファエル前派の好んだ典型的な少女像といえます。

モデルになったアリス・グレイはミレイの義理の妹です。彼女はしばしばミレイのモデルになっており、同年ミレイがロイヤルアカデミーに発表した「春」(あるいは「林檎の花」)にはアリス・グレイが2箇所が登場しています。

利用案内

- 開館時間／午前9時～午後5時
- 休館日／毎週月曜日 ただし祝日・振替休日の場合は翌日が休館となります。年末年始(12/28～翌年1/3)は休館、また展示替え等のために臨時休館する場合があります。
- 観覧料金／・企画展観覧料 企画展によって観覧料が異なります。なお、同観覧料で、常設展もご覧になれます。
・常設展観覧料
一般 400円(320円)
大学・高校生 200円(160円)
中学・小学生 100円(80円)
※()内は20名以上の団体料金です。
- 施設利用料金／講堂 1日につき 25,000円
ギャラリー 1日につき 16,000円
※ただし、月曜日は休館です。



THE NIIGATA PREFECTURAL MUSEUM OF MODERN ART

新潟県立近代美術館

新潟県長岡市宮間町字居掛278-14 〒940-21
TEL. 0258-28-4111 FAX. 0258-28-4115